

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 12 月 23 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271401848		
法人名	おおいし 有限会社		
事業所名	グループホーム おおいし		
所在地	〒854-0302 雲仙市愛野町乙1161番地2		
自己評価作成日	平成26年11月27日	評価結果市町受理日	平成27年1月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php
--------------	---

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町 3118-1
訪問調査日	平成 26 年 12 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

定期的受診以外で月1回また2回の外出 (外食・季節見学・展示会の見学)
島原半島 GH 連絡協議会主催の風船バレー大会参加
おおいし秋祭り (地域の住民・ご家族・他の施設利用者参加)
自由に入出入りや見学・訪問が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

法人に隣接している当ホームは、庭先に石燈籠や綺麗に剪定された植木が立ち並び、敷地が広々としている。玄関には、来客とお話できるように椅子が置いてあり、入居者が書かれた習字や「お父さんお母さんありがとう 幸福」と家族が書かれた習字を掛け軸にして飾られていて入った時に暖かい雰囲気が感じられる。同法人に有料老人ホームやデイサービスがあり、入居時の受け付け・相談・介護支援の協力や、交流があり連携が取られている。入居者の希望に耳を傾けられ、月に1回は必ず花見等の季節見学や、イルミネーション見学後の外食に行かれている。文化フェスティバルに作品見学やGH連絡協議会の風船バレーボール大会に参加等、職員間で連携が取られており、なるべく全員参加で外出支援に力を入れている。1つ1つの入居者の「想い」を大切にされていますますます期待の持てるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「想」の理念を掲げ家族的で楽しくをモットーに支援を行っている。	理念「想」を基に、年間目標「積極的に研修会や資格取得をしよう。」を職員間で共有して、スキルアップに努めており、介護支援の質の向上に繋げ実践を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	愛野文化展に作品出展、地域の小・中学生の福祉体験受け入れ・同隣にあるデイサービスの利用者様との交流・秋祭り参加。	近隣の畑を作っている方から旬の野菜（レタス・ブロッコリー）のお裾分けがある。また、文化フェスティバルに習字の出展や、GH連絡協議会の風船バレーボール大会に参加。吾妻中や愛野中の職場福祉体験受け入れなど、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員会・秋祭り等に地域の人に参加して頂き、利用者様の状態を見られたり、質問等に答えたり、地域の文化祭には利用者様の作品を出展したり、職場体験実習などの受け入れも積極的に行っている。地域住民の方々と利用者様は、顔なじみの関係であり声掛けや協力を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を活かして地域の町内会・老人会・中学校の方々に参加して頂き、ホームの状況・認知症・介護保険等の実態を報告・説明等をして理解してもらえるように努めている。	平成26年10月24日に第一回目の推進会議をされている。あとは毎月される予定である。自治会長2名・民生委員・市民生活課・職員2名参加されている。入居者状況や行事予定について話されたり、また、介護についての質問や意見が豊富に出され説明されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員採用時に雲仙市内の居住者を採用しながら各地域のイベントに参加しやすい方向に繋がっている。GH連絡協議の会議時等に入居者状況や相談等を行ったように心がけ手いる。	市のGH連絡協議会の会議が年4～5回あり、県GH連絡協議会の役員をされている方が、講師として介護保険の情報を話して下さるので相談し、情報収集して、協力関係を結んでいる。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束に繋がる行為は行っていないが、やむを得ない場合は家族に説明・理解を頂いた上で実施・記録にとどめる。日中は施錠せず、利用者様を目配り出来る位置で見守りをしている。	「高齢者虐待の対応について」広域圏の研修会に行かれて、拘束しないように職員間で共有して、介護支援が行われている。職員見守りで、自由に散歩に出かけられる入居者もいられ、気持ちを尊重し、その方に合わせた見守りの方法でケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加したり、申し送り時に再度確認を行ったり、再度マニュアルの確認を行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては理解しているが、今現在、活用する対象者が居ません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い理解の上入居可能としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接代表者との話し合いで意見、要望を家族が伝えている。その後プランに取り入れている。面会時や電話、手紙での報告、運営推進委員会等で意見を聞き職員で話し合いケアに取り組んでいる。	入居者の希望で、「歌謡曲番組」がある時は、声掛けで知らせ、楽しめられるように配慮されている。施設長が家族の意見を、雑談の中で聞かれ、職員間で共有し改善して、介護支援に取り組んでおられる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議において意見交換や代表者との個々の面接において意見を述べている。	朝の申し送りの時、手引き歩行が危ないので、腕組で歩行介助を提案したり、車の乗車時の接遇について、職員の意見が合わない時、その都度施設長が意見を言われ、接遇の共有が図られている。	職員の提案を、申し送り時に共有され、その都度、接遇について気付いた事は意見されているが、更に月1回の会議で話し合い記録に残し、職員間で共有しケアに繋げて実践されることが望まれる。

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の職員の状況に合わせた労働時間の配慮や、職員の親睦会等を行っている。介護処遇給付を取り入れている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得の為の研修、試験には積極的に参加させる。また研修内容についてのレポートを作成し、他の職員への周知・報告体制を整えている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会の参加を行う事で、研修会・講習会などで交流する事で情報の交換が出来るようにしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居後本人の状態を見極め話しかけたりしながら安心できるよう心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に家族の要望を聞きプランに取り入れている。新たな要望に関してはその都度取り入れている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まずは本人の行動、病状を観察しその後家族との話し合いにて支援援助に繋げる。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	趣味や特技分野を活かして職員と共に楽しむ。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得ながら、一時帰宅を取り入れながら、共に支援援助をしていくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域、外食や施設等の場所を取り入れながらホーム行事を行っている。また同隣にあるデイサービスの顔なじみのある方との交流を取り入れている。	習字の好きな入居者が、毎月1回先生に来て頂き、習われた作品を文化展に出展されるなど趣味を楽しまれている。隣接したデイサービスの知り合いと交流をされ、話をしたりして馴染みの関係づくりを支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士は隣同士に座って頂いたり配慮をし居室訪問にも繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入院に際し洗濯物をホームで行ったり、また、家族に変わり状況・状態の確認を行い連絡をとりあっている。他の施設への面会を行ったりしている。また、通夜・葬儀参列を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出の希望等職員との話し合い等で意向を汲み取るよう努めている。	日頃の入居者の表情や体の状態を見て、言葉にできない思いを把握してトイレ誘導をしたり、意思表示をされる人の話に耳を傾け、入居者の希望や意向の支援を行っている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの聞き取り等に努めている。また、利用者様から聞いたりしています。その後ご家族に再度確認することもあります。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日3回のバイタルチェックにより心身状態の把握等に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議にて話し合いを持ち意見をとり入れている。	11月から広域圏のケアマネージャーより介護計画の立て方の実施指導があり、介護保険の有効期限に合わせて、細やかな介護計画が立てられるようになり、さらに現状に則した介護計画が立てやすくなっている。短期目標にする事により、達成しやすくなり、介護記録に書き易く、目標達成に達成感がある。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の様子をカルテに記載「午前・午後」気づきは申し送り帳に記載し情報を共有している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの急な外出の希望等に対し、柔軟に希望に添えるよう支援している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭出展。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に通院出来るようにし医師とも連携を取っている。またご家族と協力し合い、かかりつけ受診を行うようにしている。	其々のかかりつけ医に、職員が受診支援を行っている。受診の際には、看護師が、一人ひとりの入居者の状態の報告や、アドバイスなど、伝達記録を、医療ノートに閉じられ職員間で共有し、医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤日に報告・相談を行い対応している。また、急な時は電話連絡を行い指示を伺う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はソーシャルワーカーや看護師と密に連絡を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針はありますが、現在該当はありません。	職員は救急救命の講習を受けられており、重度化された場合までは見られているが看取りまでは至っていない。必要に応じて説明されて看取りをされる予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員救命救急の講習に参加し講習修了書を持っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営委員会に地域の自治会長さんに参加して頂いている為、一緒に火災・災害等もお願いしている。	ホームは避難場所になっている。備蓄品は、透明のケースにリストを貼り付けて、何が入っているか見やすく保管されている。寝たきりの入居者用の保温アルミシートを準備するなど、備蓄品は積極的に準備されていたが、消味期限・数量の記入が無かったので、記入されることを提案した。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁時等さりげない声掛けで他の入居者に分からないようなトイレ誘導や居室からの洗濯物・汚染物等は新聞紙で包んで捨てる等配慮している。 入居者の呼び方は基本的に名字にさん付けで呼ばれているが、名字で気付かれない方もいるので、名前やあだ名で呼ばれる時もある。外部の研修やプライバシーの研修は参加されていないが、週1回来所されるケアマネージャー（介護の丁寧な方）の接遇を見て勉強されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で本人の希望等さりげなく聞き出すようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を取り入れベッドで休ませたり、テレビ視聴されたり、散歩に一緒に行ったりと支援している。入居者様に合わせた、起床・就寝・食事時間の変更を行っています。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が同意した服を本人が嫌がったりしたら、本人の気に入る服に替えたりしている。男性利用者様への髭剃りも行う。利用者様に準備して頂きアドバイス等をもらうようにしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力により食事を飲み込みやすいよう、刻み食にしたり、食事と一緒に食べながら支援している。食事制限のある方には、違う物の提供を行ったり、ご家族と本人様、医師と話し合い好きな物を食べてもらうようにしたりしています。 病院結果報告で、ナトリウム不足になり栄養士を入れられ食事の見直しをされている。味付けの設定をして改善されている。また、ポカリスエットを薄めて朝のおやつ時に飲んだり、食前食後に飲んだりして、1日200cc飲むように配慮されている。秋祭りのカレー準備の時に、ジャガイモや人参を剥いてもらったり、食事の前に台を拭いてもらったりして、職員と一緒に準備を手伝ってもらっている。

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3度の食事量・水分量をチェックし、一人ひとりの状態把握に努めている。おやつ時・起床時の水分チェックを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後共同洗面所にて、うがい・歯磨きを行っている。ひとりで出来ない入居者に対しては職員が介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間の把握に努めトイレ誘導をし、また、昼間は布パンツで過ごせるよう支援している。	居室にはトイレの設置があり、日中はトイレでの排泄を大切にしながら入居者に合わせた支援を行っている。夜間の排泄は時間を見てトイレ誘導を行ったり、見守りをして支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄をチェックし水分補給や運動、または医師・看護師と相談しながらの調節を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回～4回の入浴を支援しているが、毎日入浴の準備はしており個々に対応している。	日々の入居者のタイミングを見られ、10月より午前と午後に入れるように調整された。時間を設定しない事で入居者や職員のゆとりができ、一人ひとりに合わせた入浴支援がますます充実してきている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はベッドでの休息やソファでの居眠り等、個々に対応している。また、夜間は眠くなるまでテレビ視聴する等その時に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書等わかりやすいカルテに閉じ目を通して、薬の服薬は職員が行い本人の体調に目を配っている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手紙を書いたり・新聞・雑誌、習字の練習等、利用者様の好きな事に取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、月1回程度の会食、または季節の見学等に行きます。	季節の見学として、月に1回は外出支援をされ、花見やイルミネーションなどの見学や外食、初詣にも行かれている。なるべく全員参加で、職員間で連携を取らて、入居者の要望に応じて支援を行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は自己管理され外出時に使用されている。他の利用者は外出時に職員管理のもと買物をしたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って行っている（自由に電話使用可能である）。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーに季節の花を飾ったりし、カーテンの調節や温度の調節に努めている。	玄関に入居者が書かれた習字や「お父さんお母さんありがとう 幸福」と家族が書かれた習字を掛け軸にして飾られており、入った時に暖かい雰囲気を感じられる。ロビーは吹き抜けになっており広くて明るく、対面式の台所からは、職員の顔が見え、安心してテレビを見たり食事の後に会話を楽しまれるなど、和やかな雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やロビーに椅子・ソファを配置し、座ってテレビ視聴やおしゃべりができるようにしている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使っていたタンス等持ち込んでもらっている。	居室にはクーラーやベッドが、設置されており、家族の写真やカレンダーが、思い思いに飾られている。また、習字の好きな方の居室は、机の上に、習字道具が置かれており、いつでも習字が練習できるようになっており居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレに手すりをつけたり、歩行器・車いすの貸し出しにより本人の力に合わせた支援を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない